
天と地の裂け目

まゆか

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

天と地の裂け目

【Nコード】

N0767A

【作者名】

まゆか

【あらすじ】

クラスの女子3人にいじめを受けていた愛華。だが、転校生が来たことを機に、突然いじめられなくなった愛華。しかし、転校生への3人のいじめが、段々ひどくなっていき、愛華は我慢できずに・
・ 怨念、悲しみの感動物語。

「きつと飛び降りれば楽になれる、そう信じていた

「おらおら早く買いに行くんだよ！もたもたしてつとどうなっか分かってんだろうなあ？」

「は、はい、すぐ買ってきます……」

いじめ……私乾愛華は転校生として学校で、同じクラスの不二と切原、橘にいじめられていた。

「なんで私が転校生だからっていじめられなきゃいけないの？もう嫌……死にたい……」

「おう、やつと買ってきたか？うら、ご褒美だ。」

「ご褒美と言っておきながらも、切原に蹴りを喰らった。」

「さあ、帰るか！おっと乾く、金忘れるなよお。」

「……はい」

逆らえばきつといじめはエスカレートしていく。お母さんに言うても迷惑だ。

死ねば、楽になれる……かな？

次の日、私はお母さんに今月分の小遣いをせがみ、学校へと歩いていった。

「今日は転校生が来ています。名は……」

転校生……2ヶ月前の私も、こういう風に紹介された……

この時は、きつと皆と仲良くやっていけると思ってたのに……

「私の名前は大石香奈です。x校から来ました。お願いします。」

「転校生だってよお、なんか生意気っぽぐね？」

「同感！」

「いつちよいじめてやつかw」

「OK」

3人はクラスの仕切り役、無理矢理だが言い出したら止まらない・

・
この言葉を聞いてしまった私・・・

そうか、奴らは転校生をいじめるんだ・・・なんで・・・なんで？

次の日、その転校生”大石香奈”は、本当にいじめられていた。

「うわっ、大石にさわっちまったよ、ばい菌く不潔く」

「ひえく、きつたねえくくくんなくんなく」

もうあいつらは転校生をばい菌呼ばわり。ああ、私も始めはそうだった・・・

「きゃー、うつされちゃったあ、どうしょ；お、乾、パス！」

ぴと、と、転校生をさわった手が私の肩についた。

普段は私なんかは無視するはず。ということとは、

いじめの標的はあの転校生に変わったんだ！！

私は生まれ変わった気分になった。

この2ヶ月、どんなに辛い思いをしてきたのか・・・

嬉しかった。とてつもなく。例え転校生がいじめられるとしても。

やっぱり自分が大事、でも私、死にたい、なぜか。

今までの日々が屈辱でたまらなかったからかな。

きつとまだ他の子には、いや、まだ皆に嫌われているんだろう。

いじめからは解放されたけど、やっぱり、あのいじめられてる所からは、

お母さんが心配するから逃げ出せない・・・

学校は1日も休んでない。お母さんが困るから・・・

お母さんが大好きだから。でも、なぜか不思議な気分。

なんでかな？なんでなのかな？？すぐ死にたいよ、死にたいよ！！

眠い・・・もう朝だ。

いつものように歯を磨く、顔を洗う、そして着替える。

だが一つ変わった事があった。気分が違う、少しすっきりしている。

少し早めのテンポで、そして、軽い足取りで学校へと向かった。

新しい転校生へのいじめが始まり早1週間。

転校生の香奈は、トイレの水を飲まされたり、パシリにさせられたり、

私の時よりもっと酷いいじめをさせられていた。

「おらおら、便所の水の味も覚えるんだよ！さっさとしやがれ！！」

「はい……」

トイレでの光景を目にした時は吐きそうになった。

香奈は何杯もトイレの水を飲まされ続けていた。

私は、なぜか見下した気分で見つめていた。

いじめられるのが普通だった私。

今は……いじめられず、嫌みも言われず、

ごく普通の日々を送っていた。

だが昼休み、驚くべき光景を見てしまった。

「おい、てめえいつもの金持ってきたのかよ？」

「もう、ありません……」

「何いばってんだよ、転校生のくせに！」

「ふ、ならお前に飛びつきりの恐怖やるかw」

「もしかしてあれか」

「へへ、いいじゃねえか、やっちまおうぜ！！」

あれって何なの？

4人は歩き出した。その後を追い、もう昼休みが終わってるだろうという時間に、

私を含めた5人が、小さい横断歩道にきた。

そうして不二が話し出した。

「いいか、てめえはこの信号が赤の時に横断歩道3往復するんだよ。」

言うこと聞かないとまじひかせるぞおら。」

「は、はい……」

香奈は無感情で答えた。香奈が受けてきたいじめは、私の時より酷かった。

私はお金をきちんと持ってきたが、香奈が持ってきてないという
ことは、

それなりの重い罰がある、そう思った。

そして信号は赤信号。香奈は横断歩道に向かって走り出した。

「いゝぞ、見せしめだ。ま、せいぜいひかれないうようになw」

ひどい、ひど過ぎる！だが見つかったら何されるか分からない・

そして香奈は何とか横断歩道を往復出来た。

「今度金忘れたら横断歩道5往復だぞおら！」

「分かったな!？」

「はい、分かりました・・・」

これは、今まで見た一番のいじめだ・・・

昼休みが完璧終わっていたので、遅刻として私たちは廊下に立た
された。

「お、乾も立たされてんのか、何してたんだよ？」

「え、あの、と、トイレ・・・」

「へー」

なんだ、普通に喋れるじゃん。しかも私がいじめられてる時と、
全然違くなってる・・・

「あ、そうだ、今度またあいつやる計画とかさあ・・・」

・・・またいじめか。結局はいじめグループだもんね・・・

「5人とも、教室へ戻ってよし！」

こうして私の一日が終わる。だが・・・

「今日はとても悲しいお知らせがある。実は大石が・・・」

あの転校生がどうかしたのかとクラス中が騒ぎだした。そして私
も。

「少し落ち着け・・・あのな、大石が昨日、交通事故で亡くなった。
自ら飛び出したらしい・・・」

え？あの転校生が・・・いじめに耐えきれなかったのか・・・
私はその日、なぜか転校生の香奈の気持ちで過ごした。

そして夜、私は何だか変な気持ちでベッドに横たわっていた。
そのまま眠りについたが・・・なんか重い・・・乗っかっているの？
あ、あの子だ・・・香奈だ・・・！

私は必死にもがこうとした。だが話せないし動けない。そして香奈は話し出した。

「あなた、不二達にいじめられてたんでしよう？なのは何であたしだけ死ぬはめになるの？」

何で？お金の多さの違い？それとも何なのよっ！！」

私は何で死んだ香奈がここにいるのかと思い、怖さより、疑問の気持ちが強かった。

そのまま私は寝てしまったのか分からない。

でも今日は、香奈の告別式の日・・・クラス全員が集まった。

あのいじめ組は告別式なのにも関わらず携帯などをしている。

私は昨日の事が不思議でたまらなかった。そして・・・

「なんかさあ、赤信号の横断歩道3往復しても平気だった奴が事故るだなんてチョーへボいよな」

「同感。」

「つてか早く帰りてえよ」

3人がとんでもない話をした。しかもそれを別の学校の人が聞いていた。

その人たちはとてつもなく3人を睨んでいた。どうやら香奈は転校する前人気者だったらしい。

というよりもこんな気分じゃいられない。許せない。

同じいじめられてた子を侮辱するなんて。

もつとも、あの子が死ぬ前から止めてればよかったんだ。

ごめんね・・・私は始めてこういう気持ちになった。

3人の口から出た言葉は、式場にいた人から注目を浴びた。私は一歩前へと踏み出た。

そしてこう言った。

「いじめてる人は、いじめられている人の気持ちなんか分かんない。

あなた達はすつきりすると思うわよね。でもいじめられてる人が、どんな気持ちか・・すごく孤独で寂しくて、今すぐここから消え去りたいって、

そう思ってたのよ！私もそうだった・・・

それとね、いじめられた私たちにはあなた達側への恨みが残る。

そしてあなた達は、”いじめた”という心が残ってる。

それは、あなた達の、一生の汚点になるのよ！！」

すごく大きな声で、喉が枯れる程に言った。

するとなぜか周りから拍手が沸き起こった。

それはとても暖かい拍手。それからあのいじめっこ3人は度重なる暴行で

退学。私はいじめっこに立ち向かった者として一躍有名人になった。そして今私はこう思う。

「香奈、あなたは今天と地の裂け目、いや、ここにいると思う。

今いじめっこ達の裏をあばいた。もう安心して地じゃなくて天へ行けるはず。

悪い事はしてないもんね。もう、無理することは無いんだよ」

そう思った瞬間、大きい雲が通り過ぎていく。

それは私に微笑むように、にっこりと・・・

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0767a/>

天と地の裂け目

2008年11月7日06時46分発行